

今野 敬太 さん(21)

経済的な理由で塾に通えない小中学生を支援しようと、所属する茨城大人文部のゼミの学生たちで今夏、無料で勉強を教える「学びと交流の秘密基地」を、水戸市内の双葉台団地で開設した。

「親から子どもへの貧困の連鎖を断つのに何かでき

ないか。調査をするよりも、まず行動しよう、とみんな考えた」

ゼミでは、若者の雇用問題などを学んできた。今年三月、NPOと大学が参加する会議で、ひとり親世帯や低所得世帯が増えている実情を知ったことが、きっかけになった。

県内出身の学生仲間の話にも、シヨックを受けた。この学生の出身中学では、教師は親を交えた三者面接で「どの高校に行き、どんな職に就くのか」と、大学に進学しない前提で進路希望を聞いていたという。

「本来、大学は身近に感じてもらうべき存在なのは

ず。経済的、地域的な理由で可能性を狭めたら残念。環境の影響は大きい。身近で大学生と接する機会がないと、大学進学を遠く感じるのでは」と考えた。

無料の勉強会は夏休みを利用して八月下旬に開いた。水戸市も小中学校で参加の呼び掛けに協力し、不動産

大学進学 身近に感じて

呼び掛けに協力し、不動産

自身は来春で卒業するため、来年度以降は後輩に引き継ぐ。「ここで勉強した子どもたちが、いつか教える側になり、続けてくれたら理想的。誰かが茨城大に入ってくれたら、本当によい」

(宮本隆康)



「子どもたちが、いつか教える側になり続けてくれたら」

いまの・けいた 1993年1月、鹿嶋市生まれ。県立太田一高卒。現在、茨城大4年生で、人文学部社会科学科の労働経済論ゼミ代表。卒業後の進路は、大手運送会社の事務職が内定している。常陸太田市在住。

会社が団地近くのシヨップセンターホールを提供してくれた。

十回の勉強会には、延べ約百四十人の小中学生が集まり、ゼミの学生二十三人全員が手分けして夏休みの宿題や受験科目、苦手教科などを個別に指導した。

「保護者から要望があったし、子どもからも『もう終わっちゃうの』と言われた。必要としている人がいるのは、やってみてよく分

